魔法少女リリカルなのはViVidウォーズ

冥府の死神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのはＶｉＶｉｄウォーズ

【Ｎコード】
Ｎ５４８１Ｕ

【作者名】
冥府の死神

【あらすじ】
「ＪＳ事件」から４年、高町なのはの娘となった高町ヴィヴィオは、ごく普通に学校に通い、魔法の勉強をしていた。魔法の基礎もできてきたと判断したなのはとフェイトは、ヴィヴィオに専用のデバイス、「セイクリッド・ハート」、通称「クリス」を与え新しい友人アインハルト・ストラトス
とコロナ・ティミル、リオ・ウェズリート仲良くなり
学校が終わり全員が揃って一緒に帰る時帰り道に謎の声を聞いて呼びだした際、謎のアイテム、デジヴァイスｉｃとデジヴァイス　を

手に入れ、「ジェネラル」に選ばれた。
そのままデジタルワールドに呼び込まれたはヴィヴィオと仲間たちと共にデジタルワールドの危機に立ち向かう。

デジメモリーはないです

紹介文

ええどうもまた新しい小説を書いてしまう。駄目作者です。
何していると言われますが。
フッとＶｉＶｉｄとデジモンをクロスしたくなりました。
シリアスとかは少しはあります。
漫画見ている時にヴィヴィオ達がデジモン達を助けている。
ところを書いて見ようかなと思いまして。
仲間と友人を助けていく友情物としてはＶｉＶｉｄとデジモンをクロスは合うのではと思い今回書きました。
他の小説書けよと言われるかもしれないですがよろしくお願いします

デジモンの説明（前書き）

デジモンを知らない人のために

デジモンの説明

ヴィヴィオ、リオ、アインハルトが持つデジヴァイス
デジヴァイスiC　TVアニメ『デジモンセイバーズ』および漫画『デジモンネクスト』に登場。
『セイバーズ』ではパートナーデジモンを収納する機能が付けられたほか、『ネクスト』ではデジモンミニが変形したものとして描かれている。ちなみに『セイバーズ』では、アニメ・漫画では初の、人間が創ったデジヴァイスである。

コロナ専用
デジヴァイス　『デジモンアドベンチャー』に登場。
劇中では聖なるデバイス・デジヴァイスと呼ばれ、選ばれし子ども達のパートナー達を進化させたり、闇の力を浄化したり、仲間の居場所を探知したり、結界を張ったりと様々な機能を発揮した。

デジモンのステータスのスキャン、　コマンドのアップリンクなどの機能を持つ。

デジモンの世界観としての概要　［編集］”近未来に突如発生したデジタル生命体を捕獲しキーホルダーサイズの機械の中で育成する”というのが大元の設定である。また、関連掲載誌や攻略本等に記載されている各デジモンや舞台背景の説明文において、研究者の活躍やその他の組織・人物についての説明がされている。

デジモンの誕生
ハッカーがコンピュータ上でサイバーテロを行うために人工知能を備えさせたウィルスを広めたことがデジモンの始まりである。そのウィルスが世界中のデータを吸収して姿や性質を変え生物のような

ものとなったものがデジモンである。

デジモンの生命としての概要

デジタルモンスターは「デジタルワールド」と呼ばれるコンピューターネットワーク上の擬似電脳空間に生息する人工知能を持った架空の生命体である。様々な属性や世代に分かれており、現実の世界に存在する動植物、機械、人型や突然変異等を模した多様な種族が存在する。各デジモンの固体に関してはオリジナルとしての基本の設定が存在しており、アニメ作品に登場させる際に意図的に改変をする場合がある。また、アニメ作品の主役として新たに作られたデジモンにおいても同様であり、改変により基本の設定と異なる設定となる場合がある。これらの改変された設定は一部がアニメ作品を主題としたムック形式の図鑑等に、オリジナルである基本の設定と一緒に掲載されることがあり、アニメ作品と関連性の無い図鑑と見比べてみることが必要である。

デジモン

生態

デジモンの身体は、細胞核のような要素を持つデジコア（電脳核）、その情報を元に構成される骨格であるワイヤーフレームと皮膚であるテクスチャからなる。デジモンの姿にはデジモン自身がコンピュータ上のデータから読み取り学習したものと、人間がパソコンで作成したものとが存在する。それらは主に、ツールやゲームなどの様々なソフトから学び取ったものである。

デジモンは主にデジタルワールド上の食物を食べて生活し、さらにはネット内の様々なデータやプログラムも吸収し餌としている。また、デジモンの生命活動を維持するためには電気が必要であり、これは人間で言う酸素に相当する。デジモンは現実の生物と同じよう

に卵（デジタマ）から誕生し、病気や怪我などの外的要因や寿命で死亡する。
大人しい気性のデジモンもいるが、基本的に野生の本能による闘争心が強い種族であり、“戦闘種族”や“戦う種”とも称され、デジタルワールドはほぼ常に戦いに満ちている。
デジモンは成長の節目でより強力な形態へと（進化によってはそれまでより弱い姿へと）「進化」する。この「進化」は現実の生物の進化とは異なり、その個体が自らの構成データを大きく書き換え成長すること言う。成熟期に至るまでは元々持っている因子や、生活の仕方や戦闘経験、住まう環境の変化などにより、様々な進化形態へと分岐する。
成熟期以上のデジモンは他のデジモンたちと戦い、勝って勝率を上げることでより強力な完全体や究極体のデジモンへと進化することができる。また、過酷な環境の変化に耐えうることも、今後の完全体、究極体への進化に影響する。デジモンは基本的には年齢で進化し、進化する年齢の平均は各世代ごとに決まっている。また、ジョグレスと呼ばれるデジモン同士の合体、アイテムの装備や摂取による進化も存在する。
見た目や性格などで性別があるようにも見えるが、実際にはオス・メスの概念は無い。従って生殖は行わず、結婚や家族という概念も持たない場合が多い。ただし死ぬ間際に自らのデータを転写したデジタマを残す場合もある。初期の設定では野生のデジモンは一般的なコンピュータウイルスと同じく自己増殖機能を持っているとされていた。

進化段階
デジモンには進化の段階があり、基本的に誕生から順に幼年期Ⅰ、幼年期ⅠⅠ（それぞれ幼年期前期、幼年期後期ともいう）、成長期、成熟期、完全体、究極体の六段階に分類される。幼年期はⅠとⅠⅠがセットになる場合もある。また、例外的な進化段階である、アーマー体、ハイブリッド体、超究極体に分類されるものもいる。他に

も進化段階は変わらないが、一部のデジモンには力を開放や変質した姿である○○モン・□□モードなどと呼ばれる姿が存在する（例外として何体か、モードチェンジと同時に進化段階が変わるデジモンがいるが、これらはモードチェンジと進化段階の変化を同時に行っているものと思われる）。

性

デジモンの大部分はワクチン、データ、ウィルスの三属性に分類される。それぞれジャンケンのような関係になっており、
ワクチン種はデータ種に弱くウィルス種に強い。
データ種はウィルス種に弱くワクチン種に強い。
ウィルス種はワクチン種に弱くデータ種に強い。
ただし例外的な属性である、無・フリー・不明・ヴァリアブル等に分類されるものもいる。
→最近はこの設定もあまり意見ないですが

ＤＮＡ

ＤＮＡ（ＤＩＧＩＭＯＮ　ＮＡＴＵＲＡＬ　ＡＢＩＬＩＴＹ）は、デジモンに存在する因子のようなもので、竜・獣・鳥・虫・暗黒・聖・水・機械の８つが存在する。これらはデジモンが摂取する電気にも含まれており、デジモンの進化に影響を与えている。通電センサーを用いることにより人体や外部媒体に流れる電気からもＤＮＡを取り入れることが可能となっている。

デジモンの説明（後書き）

次回から本編です

1話

次元の海の世界の中心『ミッドチルダ』都市型テロ『ＪＳ事件から４年
対処に当たった部隊『機動六課』もすでに解散
そして、育ちゆくのは新たな世代かつて空のエース高町なのはの一人娘にして、
Ｓｔ．ヒルデ魔法学院初等科４年生高町ヴィヴィオとその友人達の勇気と友情と鮮烈な物語

次元の海の世界の中心『ミッドチルダ』とは別の場所でその戦闘は起こっていた。
敵の大量の軍団が何処かの岩石で覆われた巨大な砦の周りを包囲している。
軍団の中には、頭についている雷のマークが特徴の両腕がある小型の爆弾の軍団、
紫の毛と翼の一部が黄色で目立つ巨大な鳥軍団。
鼻先にサイのような巨大なツノが生えた巨大な鎧竜軍団。
大きなドリル型のツノを持った渦巻きのヒゲが特徴なモグラ軍団。
巨大なマンモスの軍団。
神話のミノタウルスに似た獣人の軍団。
黄金の表面の鎧が付けられたサイの軍団。
蒼い機械型のプテラの大軍。
ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団が、
岩石に覆われた巨大な砦に攻撃を仕掛ける。

「インターセプトボム！」
爆弾達が体から青いオーラを出し、左腕に青い爆弾を作り出しそれを砦に投げつけて、

次々南側の砦に投げられた爆弾が爆発していく。

「スパークウィング！」
紫の毛と翼の一部が黄色で目立つ巨大な鳥軍団が、東側から空から翼を羽ばたかせバチバチなる電気の羽を弾幕の如く飛ばして砦に向けて攻撃する。

「ガーディタスク」
鼻先にサイのような巨大なツノが生えた巨大な鎧竜の軍団の半分が、砦の背後から大きな角を使って岩壁に突進していく残り半分は、
「ヴォルケーノストライク！」
口から灼熱の強力な業火球を岩石に覆われた巨大な砦を攻撃する。

「ニセスペシャル！」
大きなドリル型のツノを持った渦巻きのヒゲ特徴モグラは南から岩石の所をツメで殴り掛る。

「タスクストライクス！」
巨大なマンモスが東側の砦に向かって巨大な牙で突撃する。

「デモンアーム！」
神話のミノタウルスに似た獣人が西側から攻め、左腕で砦を殴る

「アトミックバースト」
黄金の表面の鎧が付けられたサイが東側から攻め、砦に突撃を始める

「サイド・ワインダー」
蒼い機械型のプテラが西側から攻め、両羽に装備されているミサイルを砦に向けて放つ。

「・・・攻撃開始！」
ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団は南側から攻める
「もうこのタスクキャニオンゾーンも終わりです・・・」
体が岩石でできた子供サイズの岩石が言う。

東側の砦
「バグラ軍とカオス軍め・・・このデジタルワールド全てを戦乱に巻き込むつもりか！！」
マスクで顔を隠している魔導師が口惜しそうな表情で砦の外を見ている。

「諦めないで！」
左右で瞳の色が異なるオッドアイ右目が緑、左目が赤、髪の色が金髪のサイドポニーの女性が魔導師に言う。

「！！？」
魔導師は髪の色が金髪のサイドポニーの女性を見て驚愕する。
その女性は空を飛びながら紫の毛と翼の一部が黄色で目立つ巨大な鳥に右腕で殴り掛る。

「一閃必中ディバインバスター！！」
拳で殴った瞬間紫の毛と翼の一部が黄色で目立つ巨大な鳥に虹色の砲撃を直撃させる。
その後女性の右腕虹色の何かが現れる。

後方側
「ゴーレム創成（クリエイト）！」
ツインテールの灰が入った薄い茶色の少女が言うと巨大な岩石のゴーレムが現れ。

鼻先にサイのような巨大なツノが生えた巨大な鎧竜を持ちあげ投げ飛ばす。

西側

「サイド・ワインダー」

蒼い機械型のプテラが両羽に装備されているミサイルを碧銀の髪を特徴的なツインテールに結い、

左の大きな赤いリボンが印象的な女性に向けて放つ。

「覇王流旋衝破！！」

碧銀の髪を特徴的なツインテールに結い、左の大きな赤いリボンが印象的な女性はミサイルを受け止め、蒼い機械型のプテラに向けて投げ返す。

「馬鹿な！！」

蒼い機械型のプテラは驚きながらもミサイルを左に避ける。

「甘いです！」

銀の髪を特徴的なツインテールの女性が一瞬で蒼い機械型のプテラの背後を取る。

「速い！！」

蒼い機械型のプテラは背後に居る碧銀の髪を特徴的なツインテールの女性の存在に気づくが遅く。

「覇王空破断！」

蒼い機械型のプテラを右腕で殴り、拳撃と共に強烈な衝撃波を飛ばして、

蒼い機械型のプテラを吹き飛ばす。右腕からは碧銀の何かが現れる。

南側
「サンダーボルト！！
爆弾達が両手から電撃を発生させ黒髪ロングの女性に向けて電撃を放つ。

「雷神装！」
黒髪ロングの女性は言うと体に雷をまとわせ電撃を逆に吸収して両手を構え。

「双龍円舞！！」
周囲に炎と雷の龍を円状に展開させ召喚する。そして雷の龍が、ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団に襲いかかり炎の龍が、
大きなドリル型のツノを持った渦巻きのヒゲ特徴モグラを襲う。

ドゴオォォン！！という激しい爆発の音が周りに響く。
「オオッ！！」
ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団の数十体が雷の龍に飲み込まれデータの粒子に戻り、
同じく大きなドリル型のツノを持った渦巻きのヒゲ特徴のモグラを、炎の龍が飲み込みデータの粒子に戻す。
「よい・・・っ！！ショオッ！！1」
一体の爆弾を持ちそれを左腕で殴ってガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団に向けて、
爆弾を吹き飛ばす。

「オオッ！！」
一体の爆弾を受け止めるガスマスクを被った様な姿のアンデッド達は黒髪ロングの女性を見る。
女性の左腕は炎の色が現れている。

「デジソウルチャージオーバードライブ！！」
金髪のサイドポニーの女性が虹色のデジヴァイス・ｉＣに右腕虹色の何かを当てる。

「待っていたぜ」
地上で待機していた黄色の小さな恐竜が光り始める。

「デジソウルチャージオーバードライブ！！」
碧銀の髪を特徴的なツインテールの女性が、碧銀デジヴァイス・ｉＣに、右腕の碧銀色の何かを当てる。

「うおおお！！」
小さい角を付けた２本足で立つ獣が咆える。

「デジソウルチャージオーバードライブ！！」
黒髪ロングの女性の左腕の炎のデジヴァイス・ｉＣに、左腕の炎の何かを当てる。

「ギルモン進化！！」
地上で待機して赤色の竜が言う。

「ワープ進化！！」
ツインテールの灰が入った薄い茶色の少女が言うと。

「うん！！」
可愛いらしいウサギのような姿をした生物が光始める。

「アグモンＸ進化！！ウォーグレイモンＸ！！」
黄色の小さな恐竜が虹色の光に包まれて中から、背中にバーニアを

付けた黄金の機械竜人が現れる。
「ガブモンX進化！！」
碧銀色のさい角を付けた2本足で立つ獣が、全身重装備の機械の二足歩行の狼が現れる。

「エグザモン！！」
赤色の小さい竜から巨大な翼を持つ赤い竜が現れる。

「ディアナモン！！」
小さな可愛らしい兎は、光と影のような神秘的な女性型になる。
「ガイア！！」
ウォーグレイモンXは両腕を上に向けて地面から大地のエネルギーと空の大気中の全てのエネルギーを一点に集中させた巨大な黄金の炎球が現れる。

「ペンドラゴンズ！！」
エグザモンは、急上昇して大気圏外まで行くと止まり右腕の「アンブロジウス」と呼ばれる。巨大なランスを構える。

「グッドナイト！！」
ディアナモンは、両足の「グッドナイトシスターズ」から月の光が光始める。

「グレイスクロス！！」
メタルガルルモンXは、ミサイルの安全装置を外す。

「フォース！！」
ウォーグレイモンXは、両腕で地面から大地のエネルギーと空の大気中の全てのエネルギーを一点に集中させた。巨大な黄金の炎球を巨大なマンモスの軍団と黄金の表面の鎧が付けられたサイの軍団に

向けて投げる。

「フリーザー！！」
メタルガルルモンXは、体全体からミサイルを神話のミノタウルスに似た獣人と蒼い機械型のプテラに、
向けてミサイルを発射する。

「グローリー！！」
エグザモンは、大気圏外から右腕の「アンブロジウス」を、
ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団、
大きなドリル型のツノを持った渦巻きのヒゲ特徴のモグラに向けて
高出力のレーザー射撃をする。

「ムーン！！」
両足の「グッドナイトシスターズ」から月の光を浴びせ、サイのような巨大なツノが生えた巨大な鎧竜の軍団を眠らす。

ドゴオォォン！！！！！！！！！！
激しい爆発と爆風が周りに襲いかかる。

「おおお・・・あれこそは救世主達チームヴィヴィッド！！」
魔導師と岩石でできた子供サイズの生物が女性達を見て言う。

「ヴィヴィオ朝だよ」
突然女性の声が聞こえると少女は起きる。

「おはようなのはママ」
左右で瞳の色が異なるオッドアイ（右目が緑）左目が赤）黄色の髪のツインテールの少女ヴィヴィオは、

自分の母親高町なのはに朝の挨拶をする。
「今日は寝起き悪いね」
なのはは、ヴィヴィオを見て言う。
「いつもは寝起きいいのに練習しすぎで疲れているのかな。」
ヴィヴィオは服を着替えながらなのはに聞く。
「かもしれないね。ヴィヴィオ朝ご飯できたから早く来るんだよ」
なのは言うとリビングに向かう。
「はぁいっ！！」
ヴィヴィオは元気よく挨拶してリビングに行く。
「いってきます！」
朝食を食べ終わりヴィヴィオはドアを開けて学院に向かう。
St．ヒルデ魔法学院初等科校門前朝
「ごきげんようヴィヴィオ」
ツインテールの灰が入った薄い茶色の少女はヴィヴィオに言う。
「おはようヴィヴィオ！」
ショートの黒髪と八重歯、頭の大きなリボンが特徴の体育会系元気っ子がヴィヴィオに声を掛ける。
「コロナ！リオ！おはよう」
左右で瞳の色が異なるオッドアイ（右目が緑）左目が赤）、
黄色の髪のツインテールの少女ヴィヴィオは二人に挨拶する。
「あ・・・！アインハルトさん！」
ヴィヴィオは碧銀の髪を特徴的なツインテールに結い、左の大きな

赤いリボンが印象的な少女。
ヴィヴィオと同様に青系の虹彩異色（オッドアイ）を持つ少女に挨拶する。

「はい」
青系の虹彩異色（オッドアイ）を持つ少女アインハルトと呼ばれた少女は、
ヴィヴィオに振り向き言う。

「ごきげんようアインハルトさん！」

ヴィヴィオは元気よく明るい表情でアインハルトに挨拶する。

「ごきげんようアインハルトさん」
コロナは頭を下げアインハルトにお辞儀する。
「おはようございますアインハルトさん」
リオも元気よく明るい表情でアインハルトに挨拶する。

「ごきげんようみなさん」
静かな声でヴィヴィオ達に挨拶する。

そして４人は色々歩きながら話をして自分達の教室に向かう。

Ｓｔ．ヒルデ魔法学院初等科放課後校内夕方時刻５時

「は・・・終わった終わった」
リオは体を伸ばしながらヴィヴィオ達に言う。

「図書館に行くヴィヴィオ」
コロナはヴィヴィオに尋ねる。

「もちろん」

ヴィヴィオはコロナ達に言う
そして図書館に向かって歩き出すと途中、中庭の通路でアインハルトと出会う。

「皆さんも図書室に」
アインハルトはヴィヴィオ達に尋ねる。

「アインハルトさんもですか？」
ヴィヴィオは聞く

「皆さんもですか、私も調べ物があるので・・・一緒に行きますか？」
アインハルトはヴィヴィオ達を見て言う。

「ハイ！！」
ヴィヴィオ達は元気よく返事するとアイハルトと一緒に図書館に向かう。

物語の歯車が動き出す。

1話（後書き）

誤字と脱字読みにくい所がありましたら感想の方で報告よろしくお願いします。
修正しますので協力お願いします。

デジモン紹介（前書き）

前回登場したデジモンの紹介です

デジモン紹介

アグモンX
世代／成長期、タイプ／恐竜型、属性／ワクチン、必殺技／ベビーフレイム、ベビーバーナー
アグモンが「X抗体」を取り込み、「電脳核（デジコア）」に影響を与えたことで、未知の力を引き出した姿。体のブルーラインはグレイモンへの進化資質が向上した証。
必殺技は、息を大きく吸い込み、炎を一気に吐き出すベビーバーナーと口から高熱の火炎の息を吐き出すベビーフレイムだ。
得意技は、口から、火のかたまりを吐き出すスピットファイアと、空中で足を使い蹴り上げるダイナマイトキック、マッハのスピードでジャブを食らわすマッハジャブ、マッハのスピードのパンチを連続で叩き込むマッハジャブコンボ。下から突き上げるようにパンチを繰り出すアッパーカットだ。

ガブモンX
世代／成長期、タイプ／獣型、属性／ワクチン、必殺技／：プチファイアー、プチファイアーフック
ガブモンが「X抗体」を取り込み、「電脳核（デジコア）」に影響を与えたことで、未知の力を引き出した姿。体のブルーラインはガルルモンへの進化資質が向上した証。
必殺技は、小さな火炎弾を口から吐くプチファイアーと、小さな火炎弾を拳に纏わせた拳で殴るプチファイアーフックだ。
得意技は、ダッシュの勢いで相手を攻撃するヒドゥンノック、右手で連続パンチするマシンガンジャブ、空中で体を回転させ、ツノで攻撃するドリルホーン、口から小さな衝撃波を放つガブモンショット、

空中で遠距離を移動するドリルホーンを繰り出すドリルホーンスペシャル、
炎の力を込めたツノで攻撃するリトルホーンだ。

ギルモン
世代／成長期、タイプ／爬虫類型、属性／ウイルス、必殺技／ファイアボール、クレナイマル
肉食獣特有の凶暴性を持つ爬虫類型デジモン。腹部の“デジタルハザード”と呼ばれるマークは、コンピュータに被害を与える可能性のある危険なデジモンに刻印される。が、逆にこの能力を平和に使えばデジタルワールドを守ることができる。必殺技は、口を大きく開け、火炎弾を吐き出すファイアボール。
鎧をも破壊するカタナで攻撃するクレナイマルだ。
得意技は、大きな爪で岩をも砕く攻撃を繰り出すロックブレイカー、口から衝撃波を放つギルショット。
爪に炎を纏わせ、攻撃するファイアロックブレイカーだ。

ルナモン
世代／成長期、タイプ／哺乳類型、属性／データ、必殺技ルナクロー、ティアーシュート
月の観測データから誕生した哺乳類型デジモン。ウサギのような姿をしており、大きな耳はかなり遠くの音まで聞き分けることができる。臆病で、寂しがり屋な性格をしているが、人にはとてもなつきやすい。
必殺技、頭の触覚に力を集中させて綺麗な水球を放つティアーシュート、
闇の力が込められた爪でひっかくルナクローだ。
得意技は、耳をくるくると回し、発生させたシャボンの渦で相手を巻き込むロップイヤーリップルだ。

ゴツモン
世代／成長期、成熟期、タイプ／鉱石型、、属性／データ、必殺技／アングリーロック
鉱石のデータを身に纏い、強力な防御力を手に入れたデジモン。性格はやんちゃで元気だけど、少しワガママなところもある。世代の低いデジモンを子分にしてシステム中をねり歩く姿は、まさにデジモンのガキ大将といったところ。怒ると噴火のような勢いで暴れまわり手がつけられなくなる。
必殺技は、怒っている時のみ頭から岩を出して攻撃するアングリーロックだ。
得意技は、光に包まれた右手でパンチをくらわすハーデストパンチ、地面をもりあげ、岩の柱を何本も発生させるアースシェイカーだ。

プテラノモン
世代／アーマー体，または成熟期、タイプ／翼竜型、属性／データ、またはフリー、必殺技／ビークピアス
古代種のアルマジモンが愛情のデジメンタルで進化した翼竜型デジモン。（現在では通常進化の成熟期デジモンとしても確認されている）
翼を持つデジモンの中でも、最も高い高度で飛行することができるデジモンで、高度1万メートル上空からでも、敵を察知して相手を姿を見せずに爆撃することができる。別名「蒼い爆撃機」と呼ばれている。　必殺技は敵を察知し、遥か上空から垂直落下して鋭い鼻先で貫くビークピアス、得意技は、両羽に装備されている、ミサイルを発射するサイド・ワインダーと高度一万メートルから爆弾を落とすヘルズボムだ。

ライノモン

世代／アーマー体，成熟期、タイプ／哺乳類型、属性／ワクチン、フリー、必殺技／アトミックバースト
古代種のパタモン・コクワモンが奇跡や運命のデジメンタルで進化した哺乳類型デジモン。
輝くクロンデジゾイド製の鎧は、頑丈なだけではなく表面が鏡のようになっているので、レーザーをも跳ね返す。鎧には「アイン・ソフ・オウル」と言う宝玉が埋め込まれている。
必殺技は、「アイン・ソフ・オウル」から発せられる光で身を守り、敵に突進するアトミックバーストだ。

サンダーバーモン
世代／アーマー体，成熟期、タイプ／巨鳥型、属性／データ、フリー、必殺技／サンダーストーム
気性が荒いが仲間思いな巨鳥型デジモン。轟く爆音のような鳴き声で雷雲を呼び、額のツノで雷を操る。　古代種のゴツモン、インプモンが「友情のデジメンタル」で進化した姿でもある。
必殺技は、翼を羽ばたかせて雷の嵐を呼び起こすサンダーストームだ。

サンダーボールモン
世代／成熟期、タイプ／突然変異型、属性／データ、必殺技／サンダーボルト、サンダーボール
別名“デジモン発電機”と呼ばれる突然変異型デジモン。マメモンの一種ではないかと言われており、全身磁石の体からいつも電気を放出している。しかし侮ると、体中から１０００万ボルトの電撃を放つ！技も豊富に持っているぞ。　必殺技は、両手から電撃を発生させ攻撃するサンダーボルトと、
１０００万ボルトの電撃を体の周りに発生させ、凄いスピードでたいあたりするサンダーボール。
得意技は、体からオーラを発生させ、青い爆弾を作り出し投げつけ

るインターセプトボムと、
体中から電撃を出して、タックルするサンダーボマーだ。

モノクロモン
世代／成熟期、タイプ／鎧竜型、、属性／データ、必殺技／ヴォルケーノストライク
鼻先にサイのような巨大なツノが生えた鎧竜型デジモン。ツノは成長すると、体長の半分をしめるほどの大きさになる。このツノと体を覆う物質はダイヤモンド並に硬く、貫けない物はないといわれている。草食性でおとなしいが、一度怒らせると恐ろしい反撃を繰り出してくる。
必殺技は、口から強力な火炎弾を吐き出すヴォルケーノストライク。
得意技は、目の前の相手に、炎を吐きつづけるグランファイアーと体当たりで敵を吹き飛ばす体当たり
と大きな角を使って突進するガーディタスクだ。

ウィザーモン
世代／成熟期、タイプ／魔人型、属性／データ、必殺技／サンダークラウド
別次元のデジタルワールドから来たデジモン。故郷の名は“ウィッチェルニー”、大魔導士の修行のためにこの世界にきた。はずかしがり屋で、マスクで顔を隠している。故郷で、炎と大地の魔法（高級プログラム言語）をマスターしてきたが、この世界では主に雷の魔法を使う。
必殺技は、雷雲を呼び、雷撃を食らわすサンダークラウドだ。
得意技は、自分の分身を作り出して戦う技。ただし本物以外には影が出来ないのが弱点。マジックゲーム

ミノタルモン
世代／完全体、タイプ獣人型、属性／ウイルス、必殺技／ダークサ

イドクエイク
強力なダークサイドパワーを持つ、獣人型デジモン。動きは鈍いがその頑丈な体は、並みの攻撃ではびくともしない。左腕には腕と一体化した“デモンアーム”をつけている。
必殺技は、左手の「デモンアーム」を地面につけ、大地震を巻き起こす遠くに居ても衝撃波が襲う。
ダークサイドクエイクだ。得意技は、左腕には腕と一体化した“デモンアームで殴り掛る。
デモンアームだ。

ウォーグレイモンX
世代／究極体、タイプ／竜人型、属性／ワクチン、必殺技／ガイアフォースZERO、ポセイドンフォース、
ガイアフォース

ウォーグレイモンが「X抗体」を取り込み、「電脳核（デジコア）」に影響を与えたことで、未知の力を引き出した姿。戦いに100％勝利する無敵の装備を手に入れた真の勇者。
必殺技は、背中のバーニアで接近し零距離から一瞬にして攻撃するガイアフォースZERO、
海面の水を一点に集め巨大なドームを作り、放つポセイドンフォース、
大地のエネルギーを一点に集中させて、発射するガイアフォースだ。
得意技は、両手に装着した爪で攻撃するドラモンキラー、
体を回転させながら相手に突撃するグレートトルネード
大気中の全てのエネルギーをドラモンキラーに一点に集中させて放つウォードライバーだ。

メタルガルルモンX
世代／究極体、タイプ／サイボーグ型、属性／データ、必殺技／コ

キュートスブレス
メタルガルルモンが「X抗体」を取り込み、「電脳核（デジコア）」に影響を与えたことで、未知の力を引き出した姿。二足歩行になり、従来の機動力もそのままに超高速連射ガトリング砲「メタルストーム」を装備しパワーアップ。必殺技は、口から強烈な氷の息を吹き、凍りづけにするコキュートスブレスだ。
得意技は、体中からミサイルを発射するグレイスクロスフリーザー、相手をロックオンし、体中に搭載されたミサイル兵器やビーム砲を一斉に放つガルルバースト、
超高速連射ガトリング砲「メタルストーム」で敵に向けて放つメタルストーム、
腹部のハッチからミサイルを発射するガルルトマホーク
背中のハッチから巨大なミサイル発射するギガデストラクションだ。

エグザモン
世代／究極体、タイプ／聖騎士型、属性／データ、必殺技／アヴァロンズゲート、ペンドラゴンズグローリー
ネットワークセキュリティの最高位「ロイヤルナイツ」に属する聖騎士型デジモン。同時に濃密な竜因子を含んでおり、全ての竜型デジモンの頂点に立つ「竜帝」の異名を持つ。エグザモンはデジタルワールドの太古の時代より存在したものと思われるが、かの七大魔王「リヴァイアモン」をも凌ぐほどのデータ質量を持っており、従来のデジタル機器では描画することができず、最新鋭の機器をもってしてようやく描画することに成功、その存在を確認することができた。一つの島を飲み込むほどの巨大な翼は“意思”を持っており、「カレドヴールフ」と呼ばれる。全てクロンデジゾイドメタルで構成された特殊な翼であり、時にはエグザモンを守る盾ともなる。また、右腕には「アンブロジウス」と呼ばれる巨大なランスを装備。様々なタイプのウィルスが仕込まれた特殊弾が内蔵されている。必殺技は、「アンブロジウス」を相手に突き刺し、全ての特殊弾を

内部に炸裂、破壊させるアヴァロンズゲート、
大気圏外まで上昇した後、「アンブロジウス」しから高出力のレーザー射撃を行うペンドラゴンズグローリーだ。
得意技は、大気圏外から急降下し、地表目掛けて体当たりす技。とてつもない衝撃波を伴い広範囲にダメージを与える。ドラゴニックインパクト

ディアナモン
世代／究極体、タイプ／神人型、属性／データ、必殺技／クレセントハーケン、アロー・オブ・アルテミス
自然の力を操る「オリンポス十二神」族に数えられる神人型デジモン。月の表裏（光と影）のような二面性を持つ。氷と水を司り、どんな絶対零度の状況も諸共しない。両足には、「グッドナイトシスターズ」と呼ばれる“顔”がついている。
必殺技は、月の神秘の力で幻惑させ、己の敵と判断すれば即時に切り裂くクレセントハーケン。
背中の突起から、細く鋭く長大な、眩い“氷の矢”を引き抜いて放つアロー・オブ・アルテミス。
得意技は、両足の「グッドナイトシスターズ」から月の光を浴びせ、相手を睡眠状態に陥れる。
グッドナイト・ムーンだ。

デジモン紹介（後書き）

次回もよろしくお願いします

2話（前書き）

ヴィヴィオ編です

2話

図書館夕方１６時
「あった合った！」
ショートの黒髪と八重歯、頭の大きなリボンが特徴の体育会系元気っ子リオが図書館で料理の本を、何冊か借りている。

「リオ探していった本見つかったよ？」
ツインテールの灰が入った薄い茶色の少女コロナは、リオに聞く。

「うん」
リオは料理の本をコロナに見せて嬉しそうな表情をしている。

「アインハルトさん本見つかりましたか？」
図書館の奥の方で探し物をしている。左右で瞳の色が異なるオッドアイ（右目が緑）左目が赤）黄色の髪のツインテールの少女ヴィヴィオは青系の虹彩異色（オッドアイ）を持つ少女に尋ねる。

「中々見つかりませんね」
青系の虹彩異色（オッドアイ）を持つ少女アインハルトは、本を見ながらヴィヴィオを見て言う。

「アインハルトさんは、どいう本を探しているんですか？」
ヴィヴィオはアインハルトに探している何かを聞く。

「ある生物と用語探しているんですが・・・中々見つからないですよ」
アインハルトは、本を閉じてヴィヴィオに言う。

「生物と用語ですか？」
ヴィヴィオはアインハルトに尋ねる。

「ハイ・・・見たことない生物なので図鑑に書いてあるかもしれないと思いましたが、中々見つかりません。後その用語も書かれていませんので」
図鑑を本棚に戻して言う。

「書いていないんですかど言う用語なんですか？」
ヴィヴィオはアインハルトに聞く。

「ハイ・・・デジ・・・とか・・・モンとか、夢の中の、自分が言っていたので気になりましのので、
調べて見たんですが、此処の図鑑には乗っていませんでした。」

「アインハルトさんもあの夢見たんですか！」
ヴィヴィオは驚愕した表情でアインハルトを見て言う。

「ヴィヴィオさんもですか！」
アインハルトも驚愕した表情でヴィヴィオを見る。
まあ当然だと思うまさか二人共一緒の夢を見ることはまず無いからである。

「ヴィヴィオ達は何の話をしているよ」
リオはヴィヴィオに近づいて聞く

「ただの世間話だよリオ」
ヴィヴィオは両手を振りながらリオに言う。

「怪しい」
リオはヴィヴィオの顔を見て思う。
「私達は格闘技の話していただけです・・・リオさん」
アインハルトは冷静にリオに言うと
「そうなんですか」
リオは納得した表情でヴィヴィオ達を見て頷く。
そして図書館の奥の方から本が崩れる音が別々の場所から2回聞こえる。
「誰か居るのかな？」
コロナはヴィヴィオ達に聞く
「私達意外にいるのかもしれないね」
リオは奥を見て言う。
「私見てくるね」
ヴィヴィオはアインハルトに言うと直進の通路に進む。
「ヴィヴィオ私も行くよ」
リオはヴィヴィオに付いて行く。
「ヴィヴィオさんとリオさん気おつけて、何かありましたら念話で言ってください」
アインハルトは二人に言う。
「了解！」
二人は言うと慎重に進む。
「では…私達も行きましょうコロナさん」
アインハルトはコロナを見て言う。

「ハイ」
コロナは元気よく言うとアインハルトと一緒にもう一つの音をした所に向かう。

場所は変り周りは岩石だらけの山の場所に変る。
「此処までか・・・・」
黄色のトカゲはボロボロの状態で岩陰に隠れて言う。

「探せ反逆者は生かして返すな！」
左腕に「スカルヘッド」右手に「メタルヘッド」）特徴な三本首がある竜が言う

「了解！！」
ガスマスクを被った様な姿のアンデッドの軍団は敬礼して言う。

また別の所周辺は海と氷で覆われた場所

「俺…こんな所で死ぬのか」
ボロボロの状態で言う小さな角を付けた生物は倒れて言う。

「あの反逆者は怪我をしてます。恐らくそんなに遠い所には逃げれないはずですから、
この周辺を探しなさい」
全身氷で覆われた小人が言うと周りに居た。
体は全てワイヤーフレームの状態になっているゴーレムが辺りを探し始める。

また場所は変り図書館１６時３０頃
「念話？」

ヴィヴィオは何処からか、聞こえた声が頭の中に聞こえる。
「俺は・・・此処で死ぬのか」
黄色いトカゲは地面にボロボな状態で倒れている。
「諦めないで！黄色のトカゲさんすぐに行くから！」
ヴィヴィオは少しだけ、相手の全体が見え念話で図書館の奥に進みながら言う。

「お前・・・俺の声聞こえるのか！！」
黄色のトカゲはヴィヴィオに尋ねる。

「聞こえるよ・・トカゲさん！何処から喋っているよ。場所を教えてくれないかな？」
ヴィヴィオは黄色のトカゲに尋ねる。

「馬鹿野郎！！こんな場所にくるんじゃない！俺の場所はもう完全にカオス軍に包囲されているんだ。
来たらお前ただじゃすまないぞ！」
黄色のトカゲはヴィヴィオに怒鳴る。

「今・・・一瞬頭の中にトカゲさんの全体の姿が見えた！」
ヴィヴィオは心の中で言う。

「俺のことはほっとけ！俺は、赤の他人を巻き込みたくないからな」
黄色いトカゲはヴィヴィオに伝える。

「ぐだぐだ言わないでください！赤の他人を巻き込みたくないのは分かりますけど、

私は行きますよ」
ヴィヴィオは黄色のトカゲに怒鳴る。

「なっ・・・なんだお前急に話しかけといて・・・
お前こそ一体何処から喋って・・・いるんだ。はっ！！やばい！！
止まれ！」
黄色のトカゲはヴィヴィオに言うと、突然本棚がヴィヴィオ達の目の前に倒れる。
ヴィヴィオ達は言われた言葉を聞いて、直ぐに止まっていたので怪我をしなかった。

「ヴィヴィオ凄い反射神経だね！」
リオは驚愕の表情でヴィヴィオを見て言う。

「違うんだよ反射神経とか関係ないから」
ヴィヴィオはリオに言う。

「助かったみたいだな。ったく人の心配して自分の周りが、
見えなくなっていたら・・・世話がないな」
黄色のトカゲはヴィヴィオに言う。

「あっ・・・貴方こそ無理して大声出して・・・お互い様ですよ」
ヴィヴィオは念話で言うと、また奥に向かって走り出す。

「なるほどな確かに違わないぜ・・・ゲホゲホ！」
黄色のトカゲはヴィヴィオに言うと咳き込む。

「しっかりして！。」
ヴィヴィオは黄色のトカゲに、必死に念話で声を掛けながら図書館の奥に進ん行く。

「ヴィヴィオ！・・・辺りが」
リオは止まり言うと図書室の空間が天井から突然現れた。黒い穴に吸い込まれていく本棚と本。

「な・・何これ本が・・・・！！」
ヴィヴィオ次次本と本棚を吸い込んでいく黒い穴を見て驚愕して言う。

「どうする・・・ヴィヴィオ」
リオはヴィヴィオに走りながら聞くと突然ヴィヴィオの携帯がプルルルとなり始める。

「携帯の画面が」
ざっという雑音が聞こえるとボロボロの黄色のトカゲが携帯の画面に映り。
そして、ヴィヴィオ達の横を黄色の光の小さな光球が、図書館の奥の扉に入る。

「何今の」
リオは携帯の画面を見た後に小さな光の光球を見てヴィヴィオに尋ねる。

「わからないけど・・・とりあえず追いかけよう」
ヴィヴィオはリオを見て言う。

「わかった」
リオは頷いて二人は走り出す。
黄色の光の小さな光球に似ている、何かが入った図書館の奥の扉の扉をヴィヴィオ達は、

その扉を開くと小さな光の光球が、ヴィヴィオ達の目の前の空中に浮かんでいた。

「あの小さな命を救いたいか？」
小さな光の光球が喋る。

「喋た！！」
ヴィヴィオ達は目の前の光の光球を見て驚愕する。

「ふむ・・・先ほどの黄色の小さな竜を君達は救いたいか」
小さな光の光球がヴィヴィオ達に尋ねる。

「た・・助けたいです！助ける方法があるんですか？」
ヴィヴィオは小さな光の光球に尋ねる。
「わ・・私も助けたいです」
リオも光の光球に言う。

「リオ」
ヴィヴィオはリオを見る。

「ヴィヴィオが助けたいなら・・・友人の私も携帯に移っていたトカゲさん助けたいんだ」
リオはヴィヴィオを見て笑顔で明るい笑顔で微笑んで言う。

「よろしい・・・ならばこのデジヴァイスｉＣ　を手に取りその主となるがいい・・・
彼の傷を癒し命を保存するために必要な物だ。」
光の光球はいうと虹色のデジヴァイスｉＣと炎の色デジヴァイスｉＣをヴィヴィオ達に渡す。

「これが救うために必要な物・・・・」
ヴィヴィオ達はデジヴァイスiCを見て呟く。
「・・・少女達の旅路に幸多からんことを・・・」
光の光球が言った後突然ヴィヴィオ達の足元に黒い穴が現れヴィヴィオ達は落ちていく。
「きゃあああああああああ！！」

2話（後書き）

ヴィヴィオとアインハルト二つに分けました両方入れると長いので・・・

誤字、脱字、読みにくい所がありましたら感想で報告してください。
後程治します。

次回もよろしくお願いします

3話

図書館夕方１６時

「ヴィヴィオさんとリオさん気おつけて、何かありましたら念話で言ってください」
アインハルトは二人に言う。

「では…私達も行きましょうコロナさん」
アインハルトはコロナを見て言う。

「ハイ」
コロナは元気よく言うとアインハルトと一緒にもう一つの音をした所に向かう。

別の所周辺は海と氷で覆われた場所

「俺…こんな所で死ぬのか」
ボロボロの状態で言う小さな角を付けた生物は倒れて言う。

「あの反逆者は怪我をしてます。恐らくそんなに遠い所には逃げれないはずですから、
この周辺を探しなさい」
全身氷で覆われた小人が言うと周りに居た。
体は全てワイヤーフレームの状態になっているゴーレムが辺りを探し始める。

また場所は変り図書館１６時３０頃
「念話？」

アインハルトは何処からか、聞こえた声が頭の中に聞こえる。
「俺は・・・此処で死ぬのか」
ボロボロの状態で言う小さな角を付けた獣は氷の岩場にボロボな状態で隠れていた。
「諦めないでください！すぐに行きますから！」
アインハルトは少しだけ、相手の体が見え念話で図書館の右側奥に進みながら言う。
「君は・・・俺の声聞こえるのか！！」
ボロボロの状態で言う小さな角を付けた獣はアインハルトに聞く。
「聞こえますよ・・貴方は・・何処から喋っていますか、場所を教えてくれませんか？」
アインハルトは小さな角を付けた獣に言う。
「駄目だ！！こんな場所にくるんじゃないよ！俺の場所はもう完全にバグラ軍に包囲されているんだ。
来たら君もただじゃすまない！」
小さな角を付けた獣はアインハルトに怒鳴る。
「今・・・一瞬頭の中に誰かわかりませんが・・・・全体の姿が見えました」
アインハルトは言う。
「俺のことは諦めて逃げるんだ！俺は他人を巻き込みたくない」
小さな角を付けた獣はアインハルトに伝える。

「・・・他人を巻き込みたくないのは分かりますが・・・私は行きます。
・・貴方は何処に居るんですか？」
アインハルトは静かに小さな角を付けた獣に聞く。

「君こそ一体何処から喋って・・・いるんだ。はっ！！やばい！！止まるんだ！」
小さな角を付けた獣はアインハルトに言うと、突然沢山の本がアインハルト達の目の前に落ちてくる。
アインハルトは言われた言葉を聞いて、直ぐに止まっていたので怪我をしなかった。

「アインハルトさん・・凄いですね！」
コロナは驚愕の表情でアインハルトを見て言う。

「修業の成果です・・・」
アインハルトはコロナに言う。

「助かったみたいだね。っ人の心配して自分の周りが、見えなくなっていたら・・・世話が掛らないね」
小さな角を付けた獣はアインハルトに念話で言う。

「も・・・・申し訳ありません・・・ですがお互い様だと思いますよ？」
アインハルトは念話で言うと、奥に向かって進む。

「確かにお互い様だね・・・ゲホゲホ！」
アインハルトはアインハルトに言うと咳き込む。

「しっかりしてください！。」

アインハルトは小さな角を付けた獣に、必死に念話で声を掛けながら図書館の奥に進ん行く。

「アインハルトさん！・・・辺りが」
コロナは止まり言うと図書室の空間が天井から突然現れた。黒い穴に吸い込まれていく本を見て呟く。

「な・・本が・・・・！！」
アインハルト次次本と本棚を吸い込んでいく黒い穴を見て驚愕して言う。

「どうします・・・アインハルトさん」
コロナはアインハルトに走りながら聞くと突然アインハルトの携帯がプルルルルとなり始める。
「・・行きましょう」
アインハルトは言うと奥に進む。

突然ざっという雑音が聞こえるとボロボロの小さな角を付けた獣が携帯の画面に映り。
そして、アインハルト達の横を黄色の光の小さな光球が、図書館の奥の扉に入る。

「なんですかね先の小さな光球はアインハルトさん」
コロナは携帯の画面を見た後に小さな光の光球を見てアインハルトに尋ねる。

「わかりませんが・・・とりあえず追いかけて見ましょう」
アインハルトはコロナを見て言う。

「わかりました」

コロナは頷いて二人は走り出す。
黄色の光の小さな光球に似ている、何かが入った図書館の奥の扉の扉をアインハルト達は、
その扉を開くと小さな光の光球が、アインハルト達の目の前の空中に浮かんでいた。

「あの小さな命を救いたいか？」
小さな光の光球が喋る。

「喋た！！」
アインハルト達は目の前の光の光球を見て驚愕する。

「ふむ・・・先ほどの小さな獣を君達は救いたいか」
小さな光の光球がアインハルト達に尋ねる。

「ハイ・・た・・助けたいです！助ける方法があるんですか？」
アインハルトは小さな光の光球に尋ねる。

「ある其方のお嬢さんは」
小さな光の光球はコロナに尋ねる。

「わ・・私も助けたいです」
コロナも光の光球に言う。

「アインハルトさんが助けたいなら・・・友人の私も携帯に移っていた獣さんを助けたいんです」
も光の光球見て明るい笑顔で微笑んで言う。

「よろしい・・・ならばこのデジヴァイスｉＣとを手に取りその主

となるがいい・・・
彼の傷を癒し命を保存するために必要な物だ。」
光の光球はいうと碧銀のデジヴァイス･ｉＣと茶色のデジヴァイスをアインハルト達に渡す。

「これが救うために必要な物・・・・」
アインハルト達はデジヴァイス･ｉＣとデジヴァイスを見て呟く。

「・・・少女達の旅路に幸多からんことを・・・行くのだ選ばれた少女達よ」
光の光球が言った後突然アインハルト達の足元に黒い穴が現れアインハルト達は落ちていく。

「きゃあああああああああ！！」

3話（後書き）

とりあえずアインハルト達デジタルワールドに入りましたが
中々思いつかないので前の話の所を少し改造して投稿しました
誤字脱字アドバイスがありましたらよろしくお願いします。

次回もよろしくお願いします

しかし夢の奴が中々直せないどうなって解り易くしようか・・

4話始まりのゾーンログインマウンテン

デジタルワールドログインマウンテン上空
「きゃあああああああああ！！」
ヴィヴィオ達はデジタルワールド上空から落下中
地上には角が両肩から生えている緑色の恐竜と蒼いアロサウルスに似た恐竜と、
赤いティラノサウルスに似ている恐竜が、大量の悪魔と武装した小さい竜兵達、
全身が赤く熟した植物と戦っていた。

「恐竜！！」
ヴィヴィオ達は角が両肩から生えている緑色の恐竜と蒼いアロサウルスに似た恐竜を、
落下しながら見て言う。

「ヴィヴィオ！」
リオはソルフェージュを持ちヴィヴィオに言う。

「このままだと危ないねクリス！」
ヴィヴィオは言うと服の中から兎の人形が出てくる。

「セーット！アーップ！
ヴィヴィオ達は言うとヴィヴィオのバリアジャケットは、かつての聖王モード時の物によく似た、
デザインで、リオのバリアジャケットは中華系の意匠をこらした、
デザインに変り、
ヴィヴィオ達はプロテクションを張り落下速度を落として地上に降り立つ。

「ニッ人間だ！！？」
「人間の子供が2人も・・・！！！？」
「な・・・なんでこんな所に・・・！？」
武装した小さい竜兵達が驚愕して慌てている表情をする。

「ブルーフレア軍の蒼沼キリハか！？それともクロスハートの工藤タイキか！」
「なんか違うけど厄介にやるまえに始末しおう」
武装した小さい竜兵達がヴィヴィオ達を見て呟く。

「なんか私達大変な所に落ちたねヴィヴィオ」
リオは大人モードになってヴィヴィオに尋ねる。

「私達完全に敵だと思われているね」
ヴィヴィオは自分達を包囲して武装した小さい竜兵達を見てリオに言う。

「掛れコマンドラモン　部隊！！」
悪魔が上空から命令すると武装した小さい竜兵達コマンドラモンが、一斉にアサルトライフルの銃口がヴィヴィオ達に向けられる。

「質量兵器！？」
ヴィヴィオ達はアサルトライフルを見て驚愕な表情で見ている。
質量兵器とは、ヴィヴィオ達の世界では、ミッドチルダ、ベルカを問わず古代はそちらを主に使っていたらしい。しかし指先一つで世界を滅ぼせるその危険性故に、後世に発足された時空管理局によって根絶、
開発や所持も法律で禁止された。
そして代わりに用いられる様になったのが、比較的クリーンで安全

な力、
ヴィヴィオ達が使っている魔法である。
だが未だに犯罪者など犯罪を起こす物は、未だに銃などの質量兵器を使っている世界が多い。
魔法戦でヴィヴィオ達が戦い慣れしているとは言え、質量兵器の対策までは知らない、
ヴィヴィオ達では分が悪い相手だ。

「Ｍ１６アサシン！」
コマンドラモンがアサルトライフルを一斉に発射する。

「撃ってきたあ―――っ！！？」
ヴィヴィオ達は走り出し、弾丸の雨を回避しながら後ろのコマンドラモンを見て言う。
ヴィヴィオ達は魔法を発動しようと思ったがコマンドラモン達の弾丸の雨で発動する、
暇がないことに気づき回避行動を取ることにした。

「いきなり戦闘中の場所に落ちるとは運がないなお前ら」
ヴィヴィオの掌にあるデジヴァイスｉＣが光り出し言う。

「この声・・・黄色のトカゲさん！？」
弾丸の雨を回避しながらヴィヴィオの掌にあるデジヴァイスｉＣから聞こえる声に驚愕する。

「誰が！！黄色のトカゲさんだ！！俺はアグモンだ！！」
デジヴァイスｉＣの中からヴィヴィオに怒鳴り声が響く。

「ごめんなさい・・・アグモンさん」
ヴィヴィオは弾丸の雨を回避しながら謝る。

「・・まあいい後さんずけはやめろ普通にアグモンと呼んでくれ」
デジヴァイスｉＣの中からアグモンはヴィヴィオに言う。

「わかったよアグモンまず状況を教えてくれないかな？」
ヴィヴィオはデジヴァイスｉＣの中入っているアグモンを見て微笑
みながら弾丸を回避して、
走りながらアグモンに尋ねる。

「わかった。まずは今俺達が居る場所は俺達竜族が多くいるゾーン、
ログインマウンテンゾーン本来は平和な場所だったんだが、
最近カオス軍が攻めて来て平和な場所じゃ無くなった」
アグモンはヴィヴィオに説明する。

「カオス軍て言うのは」
ヴィヴィオは真剣な表情で尋ねる。

「カオス軍て言うのはデジタルワールド人間界を自分達の物に仕様
とする悪の軍団だ」
アグモンは説明する。デジタルワールドと人間界の関係とカオス軍
とバグラ軍の情報を、
ヴィヴィオ達に教える。

「酷いね」
ヴィヴィオは許せないという表情でカオス軍のデジモン達を見て呟
く。

「人間の子供・・・・アロモンあの子達を守るんだ」
角が両肩から生えている緑色の恐竜がヴィヴィオ達に気づき、
蒼いアロサウルスに似た恐竜に伝える。

「了解した。」
蒼いアロサウルスは頷き走り出し、ヴィヴィオ達の目の前に立ち弾丸の雨を防ぐ。

「私達を守ってくれた？」
ヴィヴィオ達が蒼いアロサウルスを見て聞く。

「俺達は君達の仲間だ子供達よ。」
蒼いアロサウルスはヴィヴィオ達を後ろ向いて見て伝え背中で弾丸を防ぐ。

「コイツらはログインマウンテンゾーンで唯一戦闘できる仲間だ。」
アグモンはヴィヴィオ達に言う。

「助けてくれてありがとうございます。これで魔法が使えます」
リオは蒼いアロサウルスを見て感謝して反撃の準備を始める。

「人間が魔法？お前らアホだろう只の人間に魔法なんか使えるわけが！」
空を飛んでいる悪魔達と地上にいる全身が赤く熟した植物は、ヴィヴィオ達を見て爆笑していた。

「双龍円舞！」
リオは言うとリオの周囲に炎と雷の龍を円状に展開させる魔法陣が現れる。

「馬鹿な！！なぜ人間が魔法を使えるんだ。」
空を飛んでいる悪魔達は炎と雷の龍とリオを見て驚いていた。

「行け炎竜！！」
リオは言うと。「双龍円舞」によって発生させた炎の龍を飛ばして、
空を飛んでいる悪魔達を、
炎の龍が喰らっていく。

『ヒィッ！！』
悪魔達は次々炎の龍に飲まれデータ粒子に変わり消滅していく。

「凄まじいな」
赤いティラノサウルスに似ている恐竜がリオを見て言う。

「なんで消えたよ！！非殺傷設定のはずなのに」
ヴィヴィオとリオは非殺傷設定になっているはずよデバイスソルフェージュを見て尋ねる。

『私にもわかりません確かに非殺傷設定のはずなんですが』
ソルフェージュはヴィヴィオとリオに言う。

「一時撤退だ引け引け！！」
悪魔達の隊長が部隊の生き残りに撤退の合図を出すと、
ひとまず後退を始め数十分後には。

「どうなら敵は撤退したようだな」
角が両肩から生えている緑色の恐竜が言う。

「そうだな」
蒼いアロサウルスは撤退した敵を見て言う。

「君達は我々の村に来て貰いたいのだがいいかな？」
赤いティラノサウルスに似ている恐竜がヴィヴィオ達に尋ねる。

「わかりました恐竜さん達の村に行こうと思います」
ヴィヴィオ達は恐竜達の言葉を聞いて考えついていくことにした。

4話始まりのゾーンログインマウンテン（後書き）

しかしリオが空気のような気がします・・・ヴィヴィオとアグモンの会話長すぎた

誤字脱字アドバイスがありましたらよろしくお願いします。

次回もよろしくお願いします。

デジモン紹介2

デルタモン（旧名：ヒドラモン）
世代／成熟期、タイプ／合成型、、属性／ウイルス、必殺技／トリプレックスフォース、　スカルファング
3体のデジモン（左腕に「スカルヘッド」右手に「メタルヘッド」）がコンピュータのバグで合わさったことにより誕生した合成型デジモン。カラダの特徴をいかした3段攻撃を得意とし、一度に3体のデジモンと戦うこともできる。しかし、3体とも元々凶悪なデジモンだったため、破壊することでは気が合うが、それぞれわがままでお互いの中は悪く、ケンカし始めることも……。
必殺技は、3体のデジモンからエネルギーを合わせていきが合った時は超強力なエネルギー弾を発射する
トリプレックスフォースと左手のスカルヘッドで相手にかみつくスカルファングだ。

ゴーレモン
世代／成熟期、タイプ／分類不可、、属性／ウイルス、必殺技／ガーディアンボム
体は全てワイヤーフレームの状態になっている。命令通りにしか動かないのは、岩石型ゴーレモンと同じだが、それ以外は謎に包まれている。
必殺技は、ワイヤーでできた巨大な球体を投げるガーディアンボム。
得意技は、右手に集中したエネルギー砲で相手を焼き尽くすアンチデジビームと、
上空からボディプレスするガルカントプレス

アロモン
世代：アーマー体（成熟期）種族：恐竜型属性：フリー（データ種）

必殺技：ディノバースト、ダイナマイトヘッド
気のデジメンタルのパワーで進化したアーマー体の恐竜型デジモン。恐竜型デジモンの中でもとりわけ凶暴で、同じ恐竜型のティラノモンとは敵対関係にある。
現在こそ純粋な恐竜型究極体かつ獰猛なディノレクスモンやスピノモンがいるものの恐竜型デジモンはティラノモンやモノクロモンなどおとなしい性格のデジモンが多かったため、恐竜型でも数少ない凶暴な部類に入る。
強靭な脚力を持っており、頭部を前に倒して水平の姿勢をとり、猛スピードで走り抜けるのも特徴。
必殺技は超高熱の熱風を吐き出すディノバースト。

ブギーモン
世代：成熟期、種族：魔人型属性：ウィルス種必殺技：デスクラッシュ、ルビーアイ
暗闇で獲物を待ち伏せ、突然襲いかかる魔人型デジモン。見た目が悪魔に似ている
体の不気味な刺青は邪悪な呪文になっており、刺青の数だけ呪文を使うことが出来る。
必殺技は三つ又の槍で敵を串刺しにするデスクラッシュ。

タスクモン
世代：（成熟期）種族：恐竜型属性：ウィルス種、必殺技：パンツァーナックル、ホーンドライバー
両肩から巨大な角を生やした超重量級の恐竜型デジモン。
思い込んだらまっしぐらの性格で、目の前にいかなる障害があろうと破壊し突き進むことからパンツァーデジモンの異名を持つ。
突進系の体当たり技を得意とし、この攻撃の前に撃沈していったデジモンは数知れない
両腕の星のマークは、今までに倒したデジモンの数を表している（

星1個につき１００体）
また、両肩の角は折れることがあってもサメの歯のように、折れた角が抜け、後ろから新しい角が前に出てくるためタスクモンの角を破壊することは無意味である。
必殺技は超弩級のパンチ、パンツァーナックルと、突進して両肩の角で攻撃するホーンドライバー。

ティラノモン
世代：（成熟期）種族：恐竜型属性：データ種：必殺技：ファイアーブレス
有史以前の世界に存在した古代の恐竜のようなデジモン。発達した２本の腕と巨大な尾で全ての物をなぎ倒す。知性もあり、おとなしい性格のため、とても手なづけやすい。そのため、初級テイマーからは重宝がられ、だいじに育てられることが多い。もっとも基本的なデジモンの代表的存在と言えるだろう。必殺技は身体の色と同じ、深紅の炎を吐き出す『ファイアーブレス』。

コマンドラモン

特殊テクスチャーに身をつつんだ武装竜兵！
世代：成長期、種族：サイボーグ型、属性：ウィルス種、必殺技：Ｍ１６アサシン、ＤＣＤボム
機械化旅団「Ｄ－ブリガード」の歩兵デジモン。
「Ｄ－ブリガード」は竜型サイボーグデジモンで構成された機械化旅団であり、決して表沙汰になることのないミッションに投入される特殊部隊である。
コマンドラモンの体表は特殊テクスチャー加工が施してあり、周囲の色をリアルタイムに判断し、あらゆる迷彩パターンを表示することが可能となっている。
そのため、ほとんどの「目標」はコマンドラモンの存在に気が付く

ことなく葬られることが多いという。
必殺技は携帯したアサルトライフルから放つＭ１６アサシンと小型爆弾のＤＣＤボム。

レッドベジーモン
属性：　ウィルス　／　世代：　成熟期　／　種族：　植物型、必殺技：　ハザードブレス
ベジーモンがフォルダ大陸の気候で赤く熟した姿。
攻撃力も知性も向上し必殺技は強烈な臭いと毒素を帯びた息を吐き出す『ハザードブレスてい るが、同時に性格の悪さも磨きが掛かってしまった。

デジモン紹介2（後書き）

こんな感じです次回もよろしく

5話

デジタルワールドログインマウンテンカオス軍拠点
其処は暗闇の洞窟の中で一匹の悪魔と左腕に「スカルヘッド」右手に「メタルヘッド」）、
体の色が青と白が目立ち特徴てきな三本首がある竜が居た。

「人間の子供だと・・・ブルーフレア軍の蒼沼キリアか？それともクロスハートの工藤　タイキ、か」
体の色が青と白が目立ち特徴てきな三本首がある竜が悪魔に聞く。

「違います子供ですが少年ではありません。少女ですデルタモン様！！」
頭を下げた状態で悪魔は言う。

「なるほど・・・それでその少女がxローダーを持っていたので敗北したのか、
ブギーモン？」
デルタモンと呼ばれた体の色が青と白が目立ち特徴てきな三本首がある竜が悪魔に尋ねる。

「いえ違います！？人間が魔法を使ったんです！？デルタモン様！！」
ブギーモンと呼べれた悪魔が頭を下げた状態でデルタモンに言う。

「貴様・・・人間が魔法を使っただと？嘘をつくならもう少しまともな嘘をつけ！！」
デルタモンがブギーモンに近づき左腕の「スカルヘッド」でブギー

モンを持ち上げ握り潰そうとする。

「ぎゃあああああああ！！！！本当です私は嘘をついていません
デルタモン様！！」
ブギーモンは悲鳴を上げながらデルタモンに必死に伝える。
次の瞬間デルタモンの目の間に映像が映る。

「デルタモン・・・・ソイツが言っていることは本当のことだ。」
映像に写っている漆黒の竜戦士がデルタモンを見て言う。

「了解しまた・・・・あの方が言っているなら本当だな」
デルタモンは映像に写ている漆黒の竜戦士を見ると納得して離す。

「た・・・助かった・・・・・」
ブギーモンは必死な表情で言う。

「しかし、なぜ人間ごときが・・・魔法を使えるのですか？」
デルタモンは映像に写ている漆黒の竜戦士を見て尋ねる。

「恐らく突然変異だろうどちらにしても我が王の敵である速やかに
処分しろ」
漆黒の竜戦士はデルタモンにいうと映像が消える

「は・・・ハハアッ！！！」
デルタモンは頭を下げていた。

一方ヴィヴィオ達はデジタルワールドログインマウンテン頂上の付
近竜神の里に来ていた。
竜神の里其処はたくさんの家があり幼年期のデジモン達と成長期デ
ジモン達が沢山いる場所だった。

「可愛い！！！」
ヴィヴィオ達は幼年期デジモン達を見て目を光らして見ている。
「人間のお客さんだ」
全身緑色の頭に草が生えた可愛らしいデジモンが言う。
「久しぶりのお客さん！」
全身青と白が特徴の両手両足がある小さな竜がヴィヴィオを見て喜ぶ。
「お客さんだ」
体の下にある短い４本の手足でトコトコ歩く小さく可愛らしいデジモンがヴィヴィオ達に近づく。
「タネモン、チビモン、トコモン、今は話したいことがあるから後で、
でいいかな？」
青いアロサウルスアロモンが言うと年期デジモン達は、
「わかりました～」
元気よく幼年期のデジモン達は言うと一斉に別れる。
「またね～」
ヴィヴィオとリオは幼年期のデジモン達に手を振ってその後アロモンを見る。
「ついて来てくれないか長老が話がしたいことがあるらしい。」
赤いティラノサウルスに似ている恐竜がヴィヴィオ達に言う。

「わかりました」
ヴィヴィオとリオは同時に言う。
数十分ヴィヴィオ達は巨大な木で作られてた木製の木の家に入った。
家の中には2本角が特徴な巨大なトリケラトップスと3体の竜がが居た。

「よく来たね人間の子供達」
2本角が特徴な巨大なトリケラトップスは凄く温厚な表情でヴィヴィオ達に言う。

「大きい！」
リオは2本角が特徴な巨大なトリケラトップスを見て驚愕な表情で呟く。

「あの貴方・・・は」
ヴィヴィオは巨大なトリケラトップスに尋ねる。

「ワシの名はトリケラモン・・この村の長老じゃ」
2本角が特徴な巨大なトリケラトップストリケラモンがヴィヴィオ達に優しく教える。

「長老て言うからおじいちゃんを想像していましたが・・」
リオはトリケラモンに伝える。

「ほっほっワシはもう十分歳だよ」
トリケラモンはリオに教える。

「そうなんですか」
リオは言う。

「うむさてワシは君達の事を知りたい。なぜ君達が空から落ちて来たのかそして、
なぜ魔法が使えるか教えて欲しいよじゃ？本来人間では魔法は使えないはずなんじゃが」
トリケラモンはヴィヴィオ達に質問をする。

「それはですね」
ヴィヴィオは説明を始める。自分達の世界のことリンカーコアとデバイスの事を説明する。

「ふむふむなるほど合点したよ。君達の世界はタイキ君とキリハ君そして彼とも、
また違う世界から来たんだね」
トリケラモンは納得した表情でヴィヴィオ達に言う。

「タイキ君？」
「キリハ君？」
ヴィヴィオ達は呟く。

「君達以外の人間の子供の二人の少年だよ」
赤いティラノサウルスに似ている恐竜がヴィヴィオ達に教える。

「私達以外にも人間の子供が来ているんですか？」
リオは尋ねる。

「ああ彼らは、今色々なゾーンをカオス軍とバグラ軍から開放しながら旅をしているよ」
青いアロサウルスに似ている恐竜がリオに教える。

「あの・・・今更ながら貴方達の名前は何モンなんですか？」
ヴィヴィオは3体の竜に質問をする。

「紹介が遅れたね。俺の名はアロモンだ」
青いアロサウルスに似ている恐竜アロモンがヴィヴィオ達を見て言う。

「私の名はティラノモンよろしく」
赤いティラノサウルスに似ている恐竜ティラノモンがヴィヴィオ達を見て伝える。

「最後は俺だなタスクモンだ」
角が両肩から生えている緑色の恐竜タスクモンはヴィヴィオ達を見て言う。

「私の名前はリオウェズリーですよろしくお願いします。」
リオは頭を下げてアロモン達を見て言う。

「アロモンさん、ティラノモンさん、タスクモンさん、私の名前は高町ヴィヴィオです。
先程は助けてくれてありがとうございます。」
ヴィヴィオはアロモン達を見て微笑んで感謝する。

「気にしなくていいよ。俺達は当然のことをしたまでだ」
アロモンは頭を下げたヴィヴィオを見て言う。

「子供を守るのが俺達の役目だからな」
タスクモンはニコニコ微笑みながらヴィヴィオに伝える。

「旦那は相変わらずだな」

デジヴァイスｉＣの中からアグモンが出てきてヴィヴィオの隣に立ちタスクモンを見て言う。

「アグモン！！お前生きていたのか！！」
アロモン達はアグモンを見て驚愕な表情で叫ぶ。

「当たり前だ俺を誰だと思っているんだ！！」
アロモン達を見て自慢げに言う。

「オオ！！生きてくれて追ったか…アグモン」
トリケラモンは涙を流しながらアグモンを見る。

「心配掛けてごめんな爺」
アグモンはトリケラモンに近づいて頭を下げ謝罪をする。

「二人とも家族なの？」
リオは二匹の会話を聞いてティラノモンに尋ねる。

「その通りだよ」
ティラノモンはリオに返答する。

「こいつ等のおかげで助かったんだ爺」
アグモンはヴィヴィオ達に指を指し言う

「こんなバカ孫助けてくれまして感謝しますぞ。」
トリケラモンは頭を下げてヴィヴィオに感謝する。

「当然のことをしたまでですよ」
ヴィヴィオは慌てて言うと次の瞬間。下からドゴオォォン！！という爆発音と家に揺れが来る。

「長老！！カオス軍が攻めて来ました！！」
アルマジロに似たデジモンが家に入り報告する。
「なんだと！！戦力はどれ位だ！！」
アロモンは尋ねる。
「一個中隊位で敵の指令デルタモンも来ています」
アルマジロに似たデジモンがアロモンに言う。
「デルタモンまで現れたか」
タスクモンは言う。
「子供達は家の中から出すなと伝えるんだ」
ティラノモンはに言う。
「了解しました」
アルマジロに似たデジモンは急いで家から出る。
「予想以上に早く戦闘に来たな」
アロモンは考えながら言う。
「君達は避難した方がいいと思うよ」
ティラノモンはリオに言うと。
「私達は私達ができることで避難の手伝いをしたいと思います」
リオはティラノモンに真剣な表情で言う。
「わかった君達は子供達の誘導してくれ」
タスクモンはリオを見て言う。

「俺は戦うぜ！」
アグモンはティラノモンに言う
「君はどうするんだいヴィヴィオちゃん」
アロモンは尋ねる。
「私もアグモンと一緒に戦います。」
ヴィヴィオは真剣な表情で言う。

5話（後書き）

誤字脱字アドバイスがありましたらよろしくお願いします。

デルタモンの圧倒的な力にのり倒れていく仲間達・・・少女が力を求めるとき
ヴィヴィオの右腕が虹色に光た瞬間アグモンに隠された力が解放され今進化の時が！！目覚める爆裂恐竜！！

次回！第６話アグモン覚醒爆裂恐竜グレイモンｘ登場！！

その前に５千ｐｖ記念ですが次回もよろしくお願いします。

５０００ＰＶ記念ディアボロモンの逆襲前編、上

新暦００７９年ヴィヴィオ達のデジタルワールド旅が終り。
第一世界ミッドチルダのあの事件を解決してからあれから４年の月日が経った。
新暦００８１年８月の終わり一体のデジモンが起こした。
事件を解決した二人の少女の片割れ高町ヴィヴィオは１４歳になり今年中等科１年生に進級していた。
体も心も２年前のり成長し勉強と魔法の練習をして強くなる努力をしていた。
事件を解決した。もう一人の片割れの少女アインハルトストラトス。
彼女もＳｔ．ヒルデ魔法学院高等科２年生に進級していました。
そして、そんな彼女らとその相棒達にリベンジとするために、
最強のデジモンと薄い紫の小さなクラゲと紫の小さなクラゲに小さな爪が着いた。
デジモンがミッドチルダのデジタル世界に侵入していた。

ミッドチルダ朝１０時何処かの家の少年の部屋
メールが１通入りましたとパソコンに書かれていた。

また別のミッドチルダ朝１０時何処かの家の姉妹の少女達の部屋
少女達はノートパソコンを開いて薄い紫の小さなクラゲをクリックすると、
ノートパソコンの画面にアインハルトとヴィヴィオの画像が出てくる。

また別のミッドチルダ朝１０時何処かの家の女性の部屋
女性は泣いているヴィヴィオの画像を見ていると、
２匹の薄い紫の小さなクラゲと紫の小さなクラゲに小さな爪が着い

たデジモンが出てくる。

Ｓｔ．ヒルデ魔法学院パソコン教室

「これで全員ですね」
黄色の長髪の美女の女性カリムグラシアは周りを見て言う。

「エリオとキャロとなのはさん達は？」
青い髪の女性は尋ねる。

「エリオとキャロは今は臨港次元船でこちらに向かい中で４時間後着く予定よ。
なのは達は仕事中で来れないよ」
金髪の美女フェイトはスバルに教える。

「そうなんですか」
スバルは言う。

「それでカリムさん・・・なぜ私達が呼ばれたんですか？」
アインハルトはカリムに質問をする。

「これをみてください。貴女達を呼んだ理由がわかります。」
部屋を暗くしてカリムのデバイスから映像が壁に映るとヴィヴィオ達の写真な、
アインハルトの幼い写真が出始める。

「今デバイスとパソコンにこの画像だけじゃなく色々な写真をばら撒かれています」
カリムは部屋にいる全員に聞こえる声で言う。

「悪戯じゃないっすか？」
赤髪の短髪少女ウェンディはカリムに言うと
「違います。これは４年前に現れたディアボロモンの仕業だとわかりました。」
カリムは首を横に振り全員に言う。
「ディアボロモン？」
黄土色の髪と青い瞳をした活発な少年は呟く。
「２年前現れたネットの中に現れたデジモンですか？」
銀髪のロングの少女チンクはカリムに言う。
「ヴィヴィオとアインハルトとアグモン達が倒したんじゃ」
フェイトはアインハルトとヴィヴィオに尋ねる。
「・・・倒したはずなんですが」
アインハルトは呟く。
「生き残りがいたんですね」
ヴィヴィオはカリムに尋ねる。
「ハイ…あの戦いで生き残ったデータ達が生き残って恐らく増殖したんでしょう」
カリムはヴィヴィオ達に言う。
「状況はそれだけではありません。さらに彼らはメールと共に現実世界に、
クラモンとツメモンを送っています」
カリムの隣に居た修道服の女性シャッハ・ヌエラが全員に教える。

「現実世界にですか！！」
黄土色の髪と青い瞳をした活発な少年は驚愕の表情をする。

「このメールを開くとクラモン達が現実世界に出てくるようになっているんです」
画像を変えて薄い紫の小さなクラゲと薄い紫の小さなクラゲに爪が生えた生物。
クラモンとツメモンの画像を見せる。

「大丈夫なんですか」
黄土色の髪と青い瞳をした活発な少年はカリムに尋ねる。

「ええヴェロッサとクロノ提督から送られてきた画像ですから」
カリムは微笑んで黄土色の髪と青い瞳をした活発な少年に返答する。

「時空管理局の戦艦のシステムを制圧してアルカンシェルを発射しようとした奴だからな」
チンクと同じ位赤髪少女ヴィータは言う。

「現実世界に出てきて来られたら大変だよ」
ヴィータの頭の上にいるアタマから背中に生えている赤い毛の白いゴマアザラシが、
全員に聞こえる声で言う。

「カリムさんネットの中でゲート開けますか？」
ヴィヴィオはカリムに尋ねる。

「開けるわよ」
「開いてどうするつもりですか？」

カリムの近くに待機していた白い猫がカリムの代わりに答えカリムはヴィヴィオに尋ねる。

「・・・何処かにクラモンを送り込んでいる本体がいると思うんです」

「本体を叩き倒します！！。」

アインハルトがカリムに説明してヴィヴィオは言う。

「ヴィヴィオ・・・」

フェイトは心配そうな表情でヴィヴィオを見ている。

「大丈夫フェイトママ！無事に戻ってきます」

ヴィヴィオはにっこり微笑んでフェイトの近くまで行き言う。

「ヴィヴィオのママさん！ヴィヴィオは絶対に俺が守るぜ！！！」

パソコンの中で待機していた小さな黄色の恐竜アグモンがフェイトに言う。

「ヴィヴィオとアインハルトには絶対に怪我をさせませんお母さん！！」

パソコンの中で待機していた小さな角を付けた獣がフェイトに言う。

「絶対に無事に戻って来てねヴィヴィオ・・・それにアインハルトも」

フェイトは二人を見て言う。

「ウンっ♪」

「…無事に戻って来ます。」

ヴィヴィオ達はフェイトを見て言う。

「ヴィヴィオ達が行くんなら俺も！」
黄土色の髪と青い瞳をした活発な少年はカリムに言う。

「トーマ君達はこちらに待機してください。現実世界で彼等が進化したら大変なので戦力は、
多いほうがいいです」
カリムはトーマを見て言う。

「でも・・・」
トーマは何かを言おうとするが其処に

「トーマ私達の戦力は少なすぎる。究極体に進化できるのはヴィヴィオ、アインハルト、
リオ、コロナリリィ、トーマ、そしてクローディア合わせて7人だけ、
お前まで行けば戦力が下がり、現実世界でクラモン達がディアボロモン達に進化した。
最悪の場合になった時対抗できなくなってしまう。」
チンクはトーマに説明する。

「わかったよチンク姉」
トーマは納得できないが頷く。

「トーマ納得できないだろうが、今回の相手は普通のデジモンではない
2年前究極体4対と同時に互角に戦えた相手ディアボロモンだ。」
チンクはトーマに教える

2年前ヴィヴィオのウォーグレイモンX、メタルガルルモンX、エグザモン、ディアナモンと4対1で、

ディアボロモンは４体の究極体と互角以上の戦いをして最終的には、
ウォーグレイモンX、メタルガルルモンXを打ち破り自分の能力の
増殖で圧倒的な数で
エグザモン、ディアナモンを倒した実力者。最終的に全世界の子供
達の光り力を貰って、
終わりの騎士オメガモンXにより倒される。

「・・トーマさんは現実世界をよろしくお願いします」
アインハルトはトーマに言う。

「ディアボロモンの方は私達の方で倒しますから」
ヴィヴィオはトーマに近づいて真剣な表情で伝える。

「わかったよ」
ヴィヴィオ達を見て言う。

「では決まったことでディアボロモンの方はオメガモンとヴィヴィ
オ達に任せてます
後私がメールが送られている場所に誘導します。他の皆さんはクラ
モン達を回収してください。
くれぐれも攻撃はしないように進化したら大変です後捕獲したら、
デジヴァイスでゲートを開いて私達のパソコンかクロノ提督のパソ
コンに送ってくださいね」
カリムは全員に伝えるとパソコンを触ていた。
そして最初の戦いが始まる。

５０００ＰＶ記念ディアボロモンの逆襲前編、上（後書き）

疲れます２９００文字書くよ動画見ながら書くよ辛いです。本当にキツイ
オリジナル要素も入れているため、
本当に疲れます主に手が脱字誤字がありましたら報告を感想によろしくお願いします。
次回は戦闘ばかりです。

ＰＳディアボロモンがなぜこんなに強いかたというと僕らのぼくらのウォーゲーム編で書きます。

デジモン紹介3

タネモン
／ 属性：　／ 世代：　幼年期　／ 種族：　球根型　必殺技：
粘着性の泡
ユラモンが地上に舞い降り成長した姿可愛い幼年期デジモンの代表と言えるデジモン。
臆病な性格で、敵の存在に気がつくと足で穴を掘ってカラダを地面の中に埋めてしまうが時折草食デジモンに食われそうになってしまうらしい。　必殺技は口から出す粘着性が高い泡粘着性の泡だ！

チビモン
属性：　／ 世代：　幼年期？　／ 種族：　幼竜型、必殺技：
ホップアタック
ブイモンの幼年期。幼年期にしては珍しく手足を備えている。
可愛い幼年期デジモンの代表と言えるデジモン。
食べる事と寝る事が好きだが、活動時には両足でぴょんぴょんと跳ねるように動き回る。

トコモン
属性：　／ 世代：　幼年期？　／ 種族：　レッサー型
必殺技：　超酸のアワ、アワ　／
体の下にある短い４本の手足でトコトコ歩く事ができるレッサー型デジモン。
愛くるしいが、口の中にはキバがびっしり生えている。

クラモン　属性：不明　／ 世代：　幼年期？　／ 種族：不明、

必殺技グレアーアイ
コンピュータネットワーク上に突如出現した正体不明のクラゲにデジモン。コンピュータネットワークを悪用する人間の悪意や、ネットワーク上で繰り広げられる争いによって発生する攻撃性が具現化し、一つのデジタマが生まれ。そのデジタマには人間の破壊本能が凝縮されており、そこから生まれたこの謎のデジモンは非常に危険な存在である。コンピュータネットワークの中で病原菌の様に繁殖して、軽度のネットワーク障害を引き起こす。必殺技は巨大な目から泡状の物体を出す『グレアーアイ』。

ツメモン
属性不明：　／　世代：　幼年期？　／　種族：不明　、必殺技ネイルスクラッチ
クラモンがさらに進化した幼年期デジモン。触手の先が鉤爪状になり、凶暴さも増している。凄まじい速さでデータを侵食し、ネットワークを狂わせる。また移動スピードも速いため、ツメモンに進化してしまうと、捕獲するのも難しくなってしまう。必殺技は触手の鉤爪で斬りつける『ネイルスクラッチ』

トリケラモン
属性データ：　／　世代：　完全体　／　種族：角竜、必殺技トライホーンアタック
草食恐竜型では一、二を争う攻撃力を持つトリケラトプスいの姿を持つ二足歩行の角竜型デジモン。表皮の頑丈さは生物系デジモンの中ではトップクラス。表皮同様、額から生えた2本の角は超硬質で、モノクロモンよりもはるかに硬い。基本的に性格は温厚で戦闘することは少ないデジモン。
しかし戦闘になれば、通常時の緩慢な動作からは推測しかねる突進攻撃は、硬質の体を持つ鉱物系デジモンでさえ破壊してしまう攻撃力を持っている。必殺技は額の2本角と鼻先の角で敵に突進してい

く『トライホーンアタック』。

デジモン紹介3（後書き）

紹介文です
次回もよろしくお願いします。

５０００ＰＶ記念ディアボロモンの逆襲前編、下（前書き）

オメガモンが合体する所はｂｒａｖｅ　ｈｅａｒｔかＢｅｌｉｅｖｅｒ掛けて読むことお勧めします。パソコンの人は

では始まります

５０００ＰＶ記念ディアボロモンの逆襲前編、下

そして最初の戦いが始まる少し前の時間ミッドチルダ路地裏１７時５０分頃。

「これで１０体目」
ツインテールの灰が入った薄い茶色の少女コロナはクラモンを捕獲して言う、

「クラ～♪」
クラモンはリオの両腕に持たれて大人しくしている。

「この子は大人しいねルナモン？」
コロナは自身のパートナーの可愛いらしいウサギのルナモンに声をかかける。

「他のクラモン達は捕まると暴れるけどこの子は本当に大人しいね」
ルナモンはクラモンを見てコロナに微笑んで言う。

「でもカリムさんに送らないと行けないから・・・」
コロナは言うとデジヴァイスを右手に持ってゲートオープンというと、
デジタルワールドのゲートが開かれる。

「もう現実世界に来たら駄目だよ・・」
コロナはクラモンを地面に降ろして言う。

「クラ～♪」
クラモンはゲートの近くまで行きコロナに振り向いて頭を下げてか

ら、
ゲートに元気よく入っていた。
後にこのクラモンが世界を救うクラモンの一体なのはまた別の話。

「バイバイ元気でね！」
コロナはクラモンを手を振って見送る。

ミッドチルダケーキ屋の近く
「嫌！！！この子は私が飼うよ！！」
小さい幼稚園児の子供がウェンディを見て泣きながら、
クラモンを大事そうに持っていた。

ウェンディ「ウン～お姉ちゃんに渡して貰えないスか、
その子は少し危ないッスから」
ウェンディは困った顔で女の子にクラモンのことを教えるが。

「絶対渡さない！！この子は・・・私の家族！！」
子供は大事そうにクラモンを見た後ウェンディに言う。

「困ったッス…」
ウェンディは困った表情で少女とクラモンを交互に見る。
家族という大事な物を知っているウェンディは悩む。

「御迷惑かけます・・」
その少女の父親は申し訳ないという表情でウェンディに頭を下げる。

「気にしないで言いッスよ」
ウェンディは父親を見て言うと

「クラ～！」

突然クラモンが暴れ始め少女から飛び跳ねて地上に降りると同時に逃げ始める。

「待って！！逃げないでよ！！」
少女は追いかけようと走り出すが石に躓き転んでしまうが

「危ないッス！！」
ウェンディが少女の小さな体を支えて少女に怪我をさせないで済んで、
親御さんに少女を任してウェンディは追いかける。

また別の所ではゲームセンター
「どこで…知ったたんだ」

チンクは呆れた表情でゲームセンターに居た。
なぜ呆れているというとツメモンがなんとコインゲームを椅子に座ってしていた。
ツメモンは目を輝かせながらメダルを見ていた

「というかコインゲームのやり方知っているですね」
チンクの足元にいる小さな黒い丸の形をしたデジモンは言う

「なんか・・・このツメモンはこれといった危険がない気がしてきた・・・」
チンクは小さな黒い丸の形をしたデジモンを見て言う

「ツメツメ♪」
コインゲームをしていたツメモンはチンク達に気付かないで夢中でコインゲームをしていた」

「なんか僕も・・・・そう思う」
小さな黒い丸の形をしたデジモンはチンクと同じく呆れた表情で見て。

「ゲート開こうか？」
「そうだな・・・」
チンクは頷きゲートを開いてツメモンをデジタルワールドに返すが、ツメモンはなぜか目から涙を流しながら泣きながら帰っていく所を見てチンクはこう言った。
姉はなんかなぜか悲しんだが・・・・と呟いた。

聖王協会

「クラモンとツメモンですからまだ問題ないですが、
進化すると大変ですね」
パソコンを触りながらカリムは言うパソコンの画面に白い猫が映る。

「カリムまだクラモン達は次次現実世界に向かっているわ！」
白い猫はカリムに教える。

「・・・可笑しいわ・・・・ヴィヴィオ達はもうネットの世界に居るのに・・・
クラモン達の目的はオメガモンのはずなのに・・・なぜ？
テイルモン貴女もすぐにヴィヴィオ達の元に向かってくれるかしら、
何か・・・最悪な事態が起こるかもしれないわ」

カリムは悩んでいる表情でテイルモンに伝える。

「わかったわ」
テイルモンは言うとヴィヴィオ達の場所に向かう。

「彼らの目的は何？」
カリムは窓ガラスを見ながらつぶやく。

そして場所は変わり電脳世界
周りにはクラモンとツメモン達が次々現実世界に送られてる。
その流れの真ん中にヴィヴィオ達は居た。
「ぐはぁ！！」
アグモンは流れた来たクラモンの一体と衝突する。

「アグモン気おつけろよ」
ガブモンはアグモンに伝える。

「わかっているぜ」
アグモンは泳ぎながらガブモンに言う。

「クラモン達私達を無視をして何をするつもりなんですかね」
ヴィヴィオはアインハルトは尋ねる。

「・・・わかりません・・・ですが今は目の戦いに集中しましょう
ヴィヴィオさん！」
アインハルトはヴィヴィオを見て伝える。

「ハイ！」
ヴィヴィオは元気よく返すと入口が近くなった所でヴィヴィオ達の
目の前に、
数十のインフェルモン達が現れヴィヴィオ達に襲いかかる。

「行きますよ！ヴィヴィオさん」

アインハルトは向かって来たインフェルモンの一体を右腕で殴り碧銀の光りのオーラが現れ、
ヴィヴィオに言う。

「ハイ」
ヴィヴィオもインフェルモンの一体を殴り右で殴ると右腕に虹色のオーラが現れる。

「デジソウルチャージオーバードライブ！！」
ヴィヴィオ達は同時に言う

「アグモン進化！！ウォーグレイモンX！！」
黄色の小さな恐竜が虹色の光に包まれて中から、背中にバーニアを付けた黄金の機械竜人が現れる。
「ガブモンX進化！！メタルガルルモンX！！」
碧銀色のさい角を付けた2本足で立つ獣が、全身重装備の機械の二足歩行の狼が現れる。

「ディークロス！！」
アインハルトとヴィヴィオは二つのデジヴァイスiCを合わせると虹色の光と碧銀色が、
ウォーグレイモンXとメタルガルルモンxに当たり2体が合体すると、
左腕にはウォーグレイモンの形をした盾と剣が、
右腕にはメタルガルルモンの形をした大砲とミサイルが装備され背中に白いマント付けた。
聖騎士オメガモンXが現れる。

「オメガモンX！！！」

「ヘルズグレネード！！」
数十のインフェルモン達が連続で口からエネルギー弾を連続で、
オメガモンxに向けて撃ち始めるがオメガモンXはそれを回避しながら、
インフェルモンを通り抜けると同時にインフェルモンはバラバラに切り裂かれる。

「この奥にディアボロモンが」

ヴィヴィオ達は銀色のオーラを纏ったオメガモンの肩の上で言う。
その後とてつもない広さの場所に出る。周りには大量のクラモンとツメモンが居た。
その場所の中心には巨大で普通のディアボロモンとは違い、
背中から黒いオーラを出して灰色の球体の中に入っているディアボロモンが居た。

「・・・・やはり2年前と同じの変異種ですね」

アインハルトはディアボロモンを見て言う。

「2年前と同じで速効で倒してやるぜ！！」

オメガモンXは言うと右腕のメタルガルルモンの形をした大砲ガルルキャノンを、
ディアボロモンに向ける。

「ガルルキャノン！！！」

右腕のメタルガルルモンの形をした大砲ガルルキャノンから、

爆炎の弾をディアボロモンに向けて放つ。

「クラクラ」

「ツメツメ」

数千のクラモン達とツメモン達が爆炎の弾丸に向かい消滅すると同時に爆炎の弾を相殺する。

「何！！」

クラモン達の意外な行動を見てオメガモンXは少し驚く。

「ネイルスクラッチ」

オメガモンXが驚愕している僅かな隙を狙ってディアボロモンは背中から、
大量の触手の鉤爪が出しオメガモンXに鉤爪を出して襲いかかる。

「アグモン！！グレイソード」

ヴィヴィオはオメガモンXに指示を出す。

「おう！！グレイソード！！」

オメガモンXはグレイソードを出し炎の斬撃波を出しながら、
自分に向かってくる大量の触手の鉤爪を次々切り裂く。

「…流石は…オメガモン…だがいつまで防げ・・・るかな？ヘルズグレネード」

ディアボロモンは次々背中から大量の触手の鉤爪を出し。
口から光りの光弾を連続で撃ち続ける。

「ガブモンメタルストームモードです！触手が増えるなら、
凍らして再生できないようするんです」
アインハルトはオメガモンに指示を出し言う。

「わかったよアインハルト！！」

ガブモンは返事をしてオメガモンX冷気の大砲が光り出し、
左腕にメタルストームというガトリング砲が現れる。

「ガルルストーム！！」

オメガモンXが左腕のメタルストームをディボロモンの光弾と触手
に向けて、
左腕のメタルストームが回転し始め氷のビームの弾丸が、
ディボロモンの連射能力を超える速さで次々発射される。
光りの光弾は氷のビームの弾丸に次々相殺され大量の触手の鉤爪も、
凍らさせて再生も増幅をできなくする。
なぜ凍らしたというと増幅と言うのは植物と同じで切っても切って
も再生して、
また増えていくという無限ループが繰り返されるが、植物は寒い所
では増幅しない。
再生も傷口を凍らせば治らないそれと同じつまり再生と増幅は意外
と簡単に凍らしたら止められるが、
希少にこの戦法が聞かない場合もあるので知っておくように

場所は代わり現実世界１８時３０分頃ミードチルダ都市部
トーマと一人の美小女と空中に浮かんでるデバイス

「２５体目・・・何体いるんだ・・・」
トーマは黒銀のデジヴァイスでゲートオープンと言ってツメモンをデジタルワールドに戻す。

「トーマ頑張って」
同じく一人の美少女がトーマを見て言う。

「がんばるよリリィ！」
トーマは美女を見て元気を出して言う。

「トーマ私に誰かが映像を送って来ました」
トーマの相棒スティードがトーマに伝える。

「映像？」

トーマはスティードに尋ねると映像が流れ始める。
映像にはヴィヴィオとオメガモンとディアボロモンの戦いが映っていた。

「凄いな」
トーマの頭の上に蒼い小さな４つ足がある竜チビモンは戦いの映像を見て呟く。

「究極体同士の戦いだからね」
リリィの足元で言う緑色の毛虫はチビモンを見て言う。
場所は戻り

「アグモン！！！ラスト行くよ！！」
「おう！！！」

ヴィヴィオが言うとオメガモンが頷き
虹色の魔力がグレイソードに集まり始める

「ディバイン・・・・ソード！！！」

ヴィヴィオの魔力をグレイソードに一点に集束させてグレイソードの虹色の巨大な斬撃を、
ディアボロモンに向けて放つ。

「カタストロフィーカノン」
ディアボロモンは胸部の砲塔から放たれるエネルギー弾を斬撃波に向けて放つが、
エネルギー弾は巨大な斬撃波前では意味がなく真っ二つに切り裂かれていくと同時に、
ディアボロモンの目の前まで来てズバァという物も切り裂く音が周りに響き。
ディアボロモンは縦に真っ二つに切り裂かれる。

「やった！！」
映像を見ていたトーマは切り裂かれたディアボロモンを見て言う。

「ふう・・・疲れたよ」
ヴィヴィオはオメガモンの肩の上で呟く。

「お疲れですヴィヴィオさん」

アインハルトはヴィヴィオに言うと同時に切られたディアボロモンが笑い始め。
周りにいたクラモン達が一斉に動き始めて次々転送されていく。

「え！！」
ヴィヴィオは驚愕した表情で周りを見ると次々周りの光が消えていくと、
同時にクラモン達は次々ミッドチルダに大量発生する。
此処からが本当の悪夢の始まりだった。

５０００ＰＶ記念ディアボロモンの逆襲前編、下（後書き）

戦闘長く書くつもりが文章長く書いてしまった。
久しぶりの４千超えは疲れる次の次は７千超えるだけに本当に疲れるな

誤字＆脱字がありましたら報告よろしくお願いします。
次回もほっとけない！！と思う多分ｗｗｗ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5481u/

魔法少女リリカルなのはViVidウォーズ

2011年10月13日16時52分発行